

令和6年度 事業報告書

自 令和6年 4月 1日

至 令和7年 3月31日

社会福祉法人 有田つくし福祉会

1 法人の概要

主たる事務所所在地……………和歌山県有田郡湯浅町大字栖原187番地の1

電 話 番 号……………0737-64-1866

代 表 者 氏 名……………理事長 西林久子

法人認可年月日……………平成12年7月14日

法人認可番号……………441

設立登記年月日……………平成12年7月21日

2 法人の行う事業

事業の種類……………第2種社会福祉事業

拠点区分「つくし」

名 称……………つくし共同作業所

事業種別……………生活介護・就労継続支援B型（多機能型）

施設長名……………野下康雄

定員／日均利用者数……………35人／33.6人

フルタイム職員／パートタイム職員…8人／15人（年度末時点：併設分を含む）

備 考……………利用契約者数：41人（年度末時点）

名 称……………つくしんぼショート

事業種別……………障害者・児童日中一時支援（市町村所管：つくし共同作業所に併設）

拠点区分「早月」

名 称……………早月農園

事業種別……………就労継続支援B型

施設長名……………泉 秀和

定員／日均利用者数……………20人／17.4人

フルタイム職員／パートタイム職員…4人／8人（年度末時点）

就労支援事業指導員数……………2人（年度末時点）

備 考……………利用契約者数：22人（年度末時点）

拠点区分「オリーブ」

名 称……………カフェ＆ベーカリー・オリーブ

事業種別……………就労継続支援B型

施設長名……………有本 光

定員／日均利用者数……………20人／16.3人

フルタイム職員／パートタイム職員…4人／4人（年度末時点）

就労支援事業指導員数……………6人（年度末時点）

備 考…………… 利用契約者数：23人（年度末時点）

拠点区分「あっぷる」

名 称…………… あっぷるホーム

事業種別…………… 共同生活援助、短期入所（共同生活援助に併設）

施設長名…………… 野下康雄

定員／日均入居者数…………… 13人／12.0人

短期入所定員／日均利用者数… 3人／0.8人（延べ263人）

フルタイム職員／パートタイム職員…………… 1人／16人（年度末時点：併設分を含む）

備 考…………… 入居契約者数：13人（年度末時点）

共同生活住居（ホーム）2箇所

拠点区分「センター」

名 称…………… 有田地域生活支援センターつくし

事業種別…………… 一般相談支援、特定・障害児相談支援、市町村相談支援（受託）、
長期入院精神障害者地域移行促進事業（受託）

施設長名…………… 澄田一志

フルタイム職員／パートタイム職員… 3人／1人（公益事業を含む）

名 称…………… 有田圏域基幹相談支援センターあねっと

事業種別…………… 基幹相談支援センター等機能強化事業（受託）

職 員 数…………… 1人

備 考…………… 和歌山県福祉事業団と共同受託 事業所は同事業団内

事業の種類…………… 公益事業

拠点区分「センター」

名 称…………… 有田地域生活支援センターつくし

事業種別…………… 在宅リハビリテーション推進強化事業（受託）

備 考…………… 本事業は第2種社会福祉事業の有田地域生活支援センターつくし
と一体的に運営し、会計も同一拠点区分として処理している。

3 定款変更の状況

なし

4 役員・評議員の状況

役職 (役職毎50音順)	氏 名	就任年月日	就任要件の区分
理事長	西林久子	令和5年6月27日	社福事業の経営に識見を有する者
理 事	馬谷哲雄	令和5年6月27日	事業区域の福祉の実情に通じている者
理 事	鬼松光夫	令和5年6月27日	事業区域の福祉の実情に通じている者
理 事	刑部悦代	令和5年6月27日	事業区域の福祉の実情に通じている者
理 事	玉置春樹	令和5年6月27日	事業区域の福祉の実情に通じている者
理 事	長尾正子	令和5年6月27日	事業区域の福祉の実情に通じている者
理 事	野下康雄	令和5年6月27日	施設の管理者

監 事	石田文雄	令和5年6月27日	財務管理に識見を有する者
監 事	三角 治	令和5年6月27日	社会福祉事業に識見を有する者
評議員	家本欣明	令和3年6月29日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	境 久	令和3年6月29日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	竹中信義	令和3年6月29日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	田上耕司	令和3年6月29日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	棚野さえ子	令和3年6月29日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	中西久光江	令和3年6月29日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	松下加壽美	令和3年6月29日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	松本伊央	令和3年6月29日	社福法人の適正運営に識見を有する者

5 評議員会・理事会開催状況

◇ 評議員会

定時 令和6年6月28日（出席：評議員6人・監事2人）

議事内容

- 1 令和5年度事業報告・決算について…………… 原案通り承認

◇ 理事会

第1回 令和6年6月6日（出席：理事6人・監事2人）

議事内容

- （報告） 理事長職務執行状況の報告…………… 報告を確認
- （議決） 1 令和5年度事業報告・決算について…………… 原案通り承認
- 2 定時評議員会の招集について…………… 原案通り承認
- 3 その他…………… 原案通り承認

第2回 令和6年11月7日（出席：理事6人・監事2人）

議事内容

- （報告） 理事長職務執行状況の報告…………… 報告を確認
- （議決） 1 令和6年度補正予算について…………… 原案通り承認
- 2 規程類の改定について…………… 原案通り承認
- 3 苦情解決第三者委員選任について…………… 原案通り承認
- 4 土地の購入について…………… 原案通り承認

第3回 令和7年1月15日（みなし決議）

議事内容

- （議決） 1 諸規程の改定（給与規程・非正規職員就業規則）について…………… 原案通り承認

第4回 令和7年3月29日（出席：理事7人・監事1人）

議事内容

- （報告） 理事長職務執行状況の報告…………… 報告を確認
- （議決） 1 令和6年度第2次補正予算について…………… 原案通り承認

- 2 令和7年度事業計画・予算について…………… 原案通り承認
- 3 諸規程の改定について…………… 原案通り承認
- 4 役員等賠償責任保険契約について…………… 原案通り承認

6 主務官庁による監査等実施状況

主務官庁	監査等実施日	対象
和歌山県障害福祉課	令和6年11月8日	早月農園（運営指導）
同	同	カフェ&ベーカリー・オリーブ（運営指導）

7 許可・認可・および承認に関する事項

事業者指定期限満了に伴い指定更新

令和6年4月1日付	：就労継続支援B型	早月農園
令和6年4月1日付	：一般相談支援	有田地域生活支援センターつくし
令和6年7月1日付	：就労継続支援B型	カフェ&ベーカリー・オリーブ
令和6年7月1日付	：特定・障害児相談支援	有田地域生活支援センターつくし
令和6年10月1日付	：共同生活援助	あっぷるホーム

8 法人運営に関する特記事項

有田川町庄30番15、同41に福祉事業用途として土地（計579.22㎡）及び既存建物（倉庫1棟：延床面積94.94㎡、他未登記建物3棟）を購入した（第2回理事会第4号議案議決分）。

今後、役職員で検討をすすめ具体的用途を定める。

9 運営の状況

◇ 法人運営

（コロナ関連）

世界的な新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」）の流行は、過去数年の事業運営に大きく影響を及ぼしたが、世の中の落ち着きとともに、本年度の当法人においても概ねのところ流行前の状況に復帰した。長く続く混乱の中で多くの損失があったが新たに得た知見も多く、今後の事業運営の礎とするところである。

（就労支援）

早月農園は主力である柑橘の相場が好調、一方オリーブは主力の店舗販売が落ち込んだが両者の工賃支払実績は翌年度月額区分1（4万5千円以上）の水準を確保した。つくし共同作業所は、全体収益はマイナス5%程度に留めたが、支払資金の不足で平均月額は5千円強下がり月額区分4（2万5千円以上3万円未満）水準になった。

（経営）

当法人の経営は過去長期にわたって、同業・同種法人と比べて利益率が低く財務内容が弱いことが課題であるが、本年度は再び800万円を超える赤字を計上し、手元資金は1年間で約1600万円も減少した。

収支悪化の原因には予見された一過性のもの（処遇改善の制度改変により従来の一時金支給から毎月支給に全面移行）も含まれるが、それらを除外しても過大な費用と低い収益という構図は変わらない。収支改善努力の掛け声だけでなく、当法人は何を優先するのか（例えば人件費・運営費の比率など）、赤字事業は何をどこまで許容するのかといった明確な指標が必要である。

新規に購入した不動産は年度末までに登記など一連の手続きが完了したが、用途に関する議論はできなかった。今後は地域の需要を適切に見極めるとともに、資金や職員体制など当法人の体力相応に段階を踏んで進める。

1、評議員会・理事会の開催

定時評議員会において前年度事業報告・決算の承認を行った。

理事会は、前年度事業報告・決算、規程の改定、予算補正、苦情解決第三者委員選任、次年度事業計画・予算、保険契約など定例的なものを4回開催した。

2、事業の整備

本年度は事業形態や定員等に変更は無く、いずれも従来どおりの体制で行った。

あつぷるホームの共同生活援助が利用定員に達しており新たな利用契約が難しいことから、今後の事業展開について基礎的な検討を継続した。またつくし共同作業所の生活介護について、建物の物理的なスペース不足という課題が顕著になり基礎的検討を開始した。

3、職員の資質・専門性の向上など

年間研修計画を作成し、研修の重要性、職員間の必要性・公平性を考慮しながら職員研修を実施した。

相談支援研修は現任研修を2名修了した。また強度行動障害支援者研修は基礎研修を複数名・実践研修を1名が受講修了した。

全職員対象の法人内研修は虐待防止や身体拘束等の適正化、感染症対策などについて2回実施した。昨年度に引き続き、当日欠席職員に対して、動画（講師の講義を撮影したもの）を後日閲覧しレポート提出までを義務付け、確実に全職員が研修内容を履修できるような措置をとった。

そのほか外部研修では、人権擁護、精神障がい、障がい福祉施策、キャリア形成（介護技術基礎）、利用者支援（強度行動障害、グループホーム）などの分野に分担して参加した。

また設置の義務付けられている虐待防止委員会・身体拘束等の適正化のための対策検討委員会を各4回ずつ開催し、その結果を職員に周知した。

4、対外活動など

行事実施や対外活動は概ね新型コロナ流行前の状況に戻った。

地域交流行事として「喫茶はやつき」「オリーブ秋まつり」を実施した。またわされん（きょうされん和歌山支部）主催のスポーツ交流会へ参加した。

社会福祉法人の地域における公益的な取り組みとして「地域の高齢者家庭への昼食弁当無料提供事業」を行うとともに、和歌山県社協主宰の「制度の狭間にある福祉課題・生活課題解決への協同プロジェクト」にも参画した。

その他、有田圏域障害者自立支援協議会の各分野（分科会）、社会就労センター（セルフ：つくし作、早月、オリーブ）、きょうされん（つくし作、早月）の活動に参加したほか、社会福祉法人経営者協議会（経営協：法人で加入）、農福連携協会（早月）、相談支援専門員協会（支援センター）に加盟を継続した（きょうされんは本年度末で退会）。

後援会・保護者会及び地域のボランティアから、訪問販売、就労支援商品化、農作業指導、物品寄付等の協力をいただいた。

情報発信として、誌面の「つくしだより」及びインターネットホームページで事業紹介や情報開示を行い、ブログ・フェイスブック・インスタグラム等により就労支援事業の販促を行った。

◇ 各事業

1、拠点区分「つくし」

「つくし共同作業所」（生活介護・就労継続支援B型）

「つくしんぼショート」（併設：日中一時支援）

①事業・定員

- ・生活介護（定員10）・就労継続支援B型（定員25）を多機能型として、及び併設事業として日中一時支援（つくしんぼショート：地域生活支援事業）を行った。

②支援内容

生活介護

- ・日常生活支援：毎日の体調チェック（看護職員）、体操、体重測定、定期的に散歩・買い物・公共施設利用・ドライブ・音楽療法・創作的活動など、及び服薬・食事・整容・排泄等の支援を行った。
- ・生産活動：生活介護班として主として企業からの下請け作業
- ・年間延べ利用者数は2,954人
(前年度+17人 1日あたり11.3人 定員比113% 新制度での定員比83%)
- ・利用実績は人数では定員超になるが、本年度から利用時間に応じた制度となったため定員を下回った。

就労継続支援B型

- ・生産活動による適性に応じた労働訓練：家庭用品等の下請け、パン訪問販売・配達、さをり織り、廃品リサイクル、清掃請負など。
- ・一般就労に向けた支援：施設外の実習、一般就労に至った事例は無かった。
- ・年間延べ利用者数は5,820人（前年度+14人 1日あたり22.3人 定員比89.2%）
- ・利用実績は、前年度比ではほぼ横ばいだが、令和元年度からは延べ1,000人弱減少した。支援学校卒業生の契約が5年以上途絶えるなど長期に渡り低調で、大きな課題である。

事業間共通

- ・給食サービスを提供した。必要な利用者にはアレルギー除去食・刻み食を提供した。また、従来から引き続き、毎月全利用者の体重測定を行い、健康状態の推移をチェックした。
- ・外部医療機関による健康診断を1回行った。生活介護以外の利用者也、体調把握のため毎月血圧・身体測定を行った。また希望者のみインフルエンザ予防接種を実施した。
- ・消防・避難等訓練を2回行った。
- ・オリーブ秋祭りに参加したほか、忘年会を実施した。また事業所合同で交流会（運動会に替わり全事業所共通行事）を実施した。
- ・合計の年間延べ利用者数は8,774人、1日あたり利用者数は33.6人であった。
- ・送迎サービスの延べ利用回数は11,047回（片道1回の計算）、送迎利用率は63.0%であった。

日中一時支援

- ・つくし共同作業所の併設事業として開設を継続したが、利用実績は無かった。

③生産活動（生活介護・就労継続支援B型計）

<事業収益>

収益額合計 9,542,062円（前年度比94.6%）

下請け・さをり等……………7,525,774 円（前年度比 94.9%）

訪問販売……………2,016,288 円（前年度比 93.5%）

<利用者工賃（給料）>

配分額合計 7,898,556 円（前年度比 82.8%）

就労継続支援B型

平均月額……………25,001 円（前年度△5,413 円） 県標準算出法による

年間最高額……………540,889 円（年額で一番多かった方）

生活介護

平均月額……………8,911 円（前年度+353 円） 県標準算出法による

- ・工賃実績は、生活介護は前年度実績を上回ったが、就労継続支援B型は5,000 円強下がった（翌年度月額区分4水準）。

下請け・さをり事業

- ・下請け作業として業者からの家庭用品・農家からの出荷用ダンボール組立、さをり織り、リサイクル作業としてアルミ缶ほか廃品類の回収・出荷作業、外部事業所の清掃請負を行った。
- ・収益は5.1%減であった。動線の工夫などによる作業効率化がかなり進んでいるため、今後収益を増やすには単価の高い商品を取り扱うことなどが必要である。

パン訪問販売事業

- ・有田圏域のうち主として有田市・湯浅町・広川町地区においてオリーブのパンの地域訪問販売をおこなった。収益は前年度比6.5%減であった。
- ・訪販を担当する利用者が不足しており、販路の確保・拡大にも影響が出た。

2、拠点区分「早月」

「早月農園」（就労継続支援B型）

①事業・定員

- ・就労継続支援B型（定員20）を行った。

②支援内容

- ・生産活動による適性に応じた労働訓練：農業に関する作業、パン訪問販売など。利用者は各活動について固定せず、当日の体調などの状況を見て班分けを行った。
- ・農業の屋外作業について、夏季は暑さ対策を入念に行った。
- ・一般就労に向けた支援：施設外の実習は無かった。1名が一般就労した。
- ・給食サービスを提供した。
- ・外部医療機関による健康診断を1回行ったほか、体調把握のため毎月血圧・身体測定を行った。また希望者のみインフルエンザ予防接種を実施した。
- ・消防・避難等訓練を2回行った。
- ・地域交流を兼ねた毎月の「喫茶はやつき」毎月実施したほか、忘年会やバーベキューなどのレクリエーションを行った。またオリーブ秋祭りへの参加や法人内事業所合同で交流会を実施した。
- ・年間延べ利用者数は4,557人（前年度△265人 1日あたり17.4人 定員比87.0%）
- ・利用実績は一般就労等による契約解除や、利用者の入院などの影響があり減少した。
- ・送迎サービスの延べ利用回数は8,869回（片道1回の計算）、送迎利用率は97.3%であった。

③生産活動

<事業収益>

収益額合計 21,661,671円（前年度比96.8%）

農業……………20,050,980円（同97.5%）

訪問販売……………1,610,691円（同89.0%）

<利用者工賃（給料）>

配分額合計 9,743,053円（前年度比103.9%）

平均月額……………45,369円（前年度+4,097円） 県標準算法による

年間最高額……………894,289円（年額で一番多かった方）

- ・工賃実績は過去最高を更新し、翌年度月額区分1（45,000円以上）になった。

農業事業

- ・借り受けた果樹園による果樹栽培を主力にして、他に露地・ビニルハウスによる野菜類栽培を行い、出荷、販売した。
- ・栽培品種は概ね変わらず、みかん・はっさく・梅・山椒等の果樹、なすび、ししとう、ふき、サツマイモ、じゃがいも、里芋、きゅうり、空まめ、ニラなどであった。本年度も引き続き柑橘類の相場が良く、単価が高かったことで概ね前年度並みの収益を確保した。
- ・収穫物を利用した自主製品は、梅干しやジャムを中心に製造し販売した。

パン訪問販売事業

- ・有田圏域のうち主として有田川町地区においてオリーブのパンの地域訪問販売をおこなったが、収益は落ち込んだ。

④その他

- ・果樹園は広大かつ専門知識が必要なため、引き続き専属の就労支援事業指導員の雇用に加え業務の一部を地域住民に委託した。
- ・農作業に従事する利用者の高齢化が進み体力面の負担を軽減する必要性が高まっており、また衛生面での環境改善や品質向上に向けて、畑休憩室の手洗い場整備や農地・農機具等の整備が課題である。

3、拠点区分「オリーブ」

「カフェ&ベーカリー・オリーブ」（就労継続支援B型）

①事業・定員

- ・就労継続支援B型（定員20）を行った。

②支援内容

- ・生産活動による適性に応じた労働訓練：「カフェ&ベーカリー・オリーブ」におけるパン等製造・店頭販売、喫茶運営、訪問販売・納品などをおこなった。
- ・一般就労に向けた支援：施設外の実習は無かった。
- ・給食サービスを提供した。必要な利用者にはメニューを工夫した。
- ・外部医療機関による健康診断を1回行った。また希望者のみインフルエンザ予防接種を実施した。
- ・消防・避難等訓練を2回行った。
- ・地域交流を兼ねてオリーブ秋祭りを実施した。また自主行事として忘年会や簡単なレクリエーション活動を実施した。法人内事業所合同で交流会を実施した。
- ・年間延べ利用者数は4,255人（前年度+82人 1日あたり16.3人 定員比81.5%）と微増であった。

- ・送迎サービスの延べ利用回数は5,083回（片道1回の計算）、送迎利用率59.7%であった。

③生産活動

＜事業収益＞

収益額合計 35,598,111円（前年度比93.6%）

店頭販売……21,599,839円（前年度比93.5%）

カフェ……2,360,554円（前年度比99.4%）

卸ほか……8,355,694円（前年度比88.7%）

訪問販売……3,282,024円（前年度比104.6%）

＜利用者工賃（給料）＞

配分額合計 9,309,048円（前年度比88.9%）

平均月額……47,592円（前年度△7,244円） 県標準算法による

年間最高額……1,100,850円（年額で一番多かった方）

- ・工賃実績は過去最高であった前年度と比べて下がったものの、翌年度月額区分1（45,000円以上）の水準を維持した。

パン事業

- ・自家製生地によるパン及びクッキー、煎餅の製造・店頭販売、訪問販売、訪販を行う法人内他事業所への卸売、地域の店舗への納品・委託販売などを行った。
- ・店舗内に併設したカフェスペースで喫茶運営を行った。
- ・店舗の販促として、周年フェア（5月）やオリーブの日（毎月10日）を実施した。
- ・製造・販売を行う店舗という事業所の特徴を生かし、法人内事業所で最も一般就労の勤務に近い形態（繁忙時間帯を考慮した出退勤時間の設定など）で行った。
- ・収益は店頭販売・卸売が落ち込み全体で6.4%減であった。

④その他

- ・店舗は開店以来15年が経過し地域に競合店も増えてきている。またガソリン減税廃止などによる影響を受けたのか材料費が高騰し続けており、社会全体の景気不振による消費の落ち込みも店舗経営にとって逆風となっている。数年前に店舗の美装・改修を実施し、継続して付加価値を高める様々な施策を行っているところである。またSNSなどを駆使しての宣伝も積極的に行い、集客につながっている。来年度以降も店として、事業所としての魅力を高めていけるよう、検討している。

4、拠点区分「あっぷる」

「あっぷるホーム」（共同生活援助）

（併設：短期入所）

①事業・定員

- ・共同生活援助（定員13：男性7女性6の2住居）及び併設事業として短期入所（定員3：男性1女性2）を行った。

②支援内容

- ・夜間の支援について、引き続きキーパー（世話人・生活支援員）が各住居で夜勤として勤務する体制で実施した。また、時折発生する緊急の医療機関受診や入院等に柔軟に対応できる体制を整えた。
- ・週1回看護師が出勤し、定期的に血圧等の体調チェックを行った。

- ・外部医療機関による健康診断を1回行った（自らの職場等で行う方は除く）。また希望者のみインフルエンザ予防接種を実施した。
- ・独自行事としてクリスマス会や外部での昼食会を実施した。
- ・消防・避難等訓練について2回行った。
- ・支援の課題や情報を共有するため、定期的に職員連絡会議（各キーパー及びサービス管理責任者・管理者）を開催した。
- ・入居者の内訳は、当法人の日中活動サービス利用者、及び一般就労者、他法人の日中活動サービス利用者であった。それぞれ必要な箇所と連絡を取り合い伝達事項等に注意した。
- ・共同生活援助の年間延べ利用者数は4, 352人（1日あたり12.0人）であった。
- ・共同生活援助は令和2年度に定員増（短期入所減）を行ったが、それ以降ずっと入居定員に空きがない状況である。
- ・短期入所の年間延べ利用者数は263人（1日あたり0.8人）で前年度よりは下がったものの、法人外の利用も含めて概ね新型コロナ流行以前の水準に戻った。

5、拠点区分「センター」

「有田地域生活支援センターつくし」（一般相談支援）

（特定・障害児相談支援）

（市町村相談支援事業）

（在宅リハビリテーション推進強化事業）

（長期入院精神障害者地域移行促進事業）

「有田圏域基幹相談支援センターあねっと」（基幹相談支援センター機能強化事業）

①事業・内容

一般相談支援、特定・障害児相談支援、受託事業として在宅リハビリテーション推進強化事業・長期入院精神障害者地域移行促進事業及び市町村相談支援事業、基幹相談支援センター機能強化事業を行った。担当職員で役割分担しつつ相互補完により運営合理化に努めた。

<一般・特定・障害児相談支援>

県指定の一般相談支援事業（地域移行・地域定着支援）、市町村指定の特定相談支援事業（計画作成）・障害児相談支援事業（計画作成・相談）を行った。

- ・一般相談支援：支援実績 0件（地域移行0件・地域定着0件）
- ・特定相談支援：計画作成実績 236件・モニタリング実績293件
- ・障害児相談支援：計画作成実績 5件・モニタリング実績7件

<在宅リハビリテーション推進強化事業>

和歌山県から受託を継続した。契約した各分野の専門職（下記）とともに地域の家庭や事業所などへ訪問して下記の活動を行った。障がい・つまづきの早期発見、早期療育の観点に務めた。

- ・在宅支援訪問リハビリ等指導事業（本年度実績 919件）

地域の家庭や施設・事業所などを訪問して、生活状況の把握、保育士による療育支援、理学療法士による機能訓練・発達観察、音楽療法士による音楽療法などの支援活動や各種相談など

- ・施設支援一般指導事業（本年度実績 20件）

地域の学校、保育所、障がい福祉事業所などを訪問して、保育士、理学療法士、音楽療法士による職員への各種助言・技術指導など

<長期入院精神障害者地域移行促進事業>

和歌山県から受託を継続した。精神科病院に長期入院を継続している方の地域生活への移行の促進をすすめることを目的としている。医療・福祉・行政等と連携しながら、下記の活動を行った。

- ・病院を訪問、退院意欲の喚起を目的にした入院患者との面談。病棟での行事への参加。
- ・入院患者を対象に、ピアサポーター（入退院を経験した当事者）を招いての茶話会、地域資源体験ツアーの実施
- ・医療、福祉従事者のスキルアップのための研修の企画開催
- ・自立支援協議会との連携。地域の支援体制構築のための協議

※当事業は令和7年3月末で終了し、翌4月から「ピアサポーター活用事業」として、上記に加え圏域のピアサポーター養成の役割を担う事業を受託予定

<市町村相談支援事業>

有田地方各自治体（有田市・湯浅町・広川町・有田川町）から受託を継続した。和歌山県福祉事業団と共同で受託し、事業運営にあたっては同事業団「サポートセンターゆい」と連携し、役割を分担・協働し相談支援活動を行った。

- ・市町村相談支援（支援実績 115人・延べ3,232件：有田市43人・延べ962件、湯浅町25人・同684件、広川町22人・同698件、有田川町25人・同888件）

主な活動内容

福祉サービスの利用等に関する支援、障がいや病状の理解に関する支援、健康・医療に関する支援、不安の解消・情緒安定に関する支援、保育・教育に関する支援、家族関係・人間関係に関する支援、家計・経済に関する支援、生活技術に関する支援、就労に関する支援、社会参加・余暇活動に関する支援、権利擁護に関する支援、その他（県及び市町村自立支援協議会への参画・研修の企画運営等）

<基幹相談支援センター等機能強化事業>

有田地方各自治体（有田市・湯浅町・広川町・有田川町）から受託を継続した。和歌山県福祉事業団と共同で受託し「有田圏域基幹相談支援センターあねっと」を共同運営した。「あねっと」は同事業団が主体となって運営し、当法人から職員1名が担当として活動した。

事業計画に沿って、毎月の定例会議によって事例共有等を行いながら下記の活動を実施した。

主な活動内容

- ・相談支援の困難ケースへの対応
- ・圏域の自立支援協議会の運営
- ・各種相談機関との連携強化（連携会議の開催等）
- ・相談支援事業者の人材育成の支援（研修など）、専門的な指導・助言
- ・地域移行や各種制度の普及啓発
- ・その他圏域において専門的知見から必要と認められること

対応件数1,230件（うち当法人職員594件 ※他職員と重複対応有）

②その他

- ・県人材育成部会に参画。県の主催する研修の企画運営や講師を担った。
- ・NPO法人わかやま相談支援専門員協会に参画し、他圏域の相談支援事業所との連携強化や情報交換を図った。

令和6年度 事業所行事等実施状況

つくし共同作業所(つ)、早月農園(早)、カフェ&ベーカリー・オリーブ(オ)、あつぷるホーム(あ)、支援センターつくし(セ)

4月～10月		11月～3月	
4月	4.1 花見(早) 4.20 喫茶はやつき(販売のみ)(早) 4.26～5.4 空調設備入替工事(つ)	11月	11.3 ゆあさYYまつり(保護者会) 11.7 第2回理事会 11.8 実地指導(オ・早) 11.16 喫茶はやつき(早) 湯浅町文化祭 さをり展示(つ) 11.19 浄化槽法定検査(早) 11.21 インフルエンザ予防接種(オ) 11.23 地域高齢者家庭配食活動(早) 11.24 防災体験館見学・ランチ会(あ) 11.25 インフルエンザ予防接種(つ) 11.28 インフルエンザ予防接種(あ)
5月	5.18 喫茶はやつき(早) 5.19 マリーナシティ ビュッフェ(あ) 5.21～31 周年フェア(オ) 5.25 地域高齢者家庭配食活動(早) 5.30 法人内部監査	12月	12.7 忘年会(つ) 12.9 忘年会(早) 12.16 健康診断(つ) 12.19 クリスマス会(あ) 12.21 喫茶はやつき(早) 12.23 忘年会(オ)
6月	6.6 第1回理事会 6.10～12 たちばな実習(つ) 6.14 保護者会総会 6.15 喫茶はやつき(早) 6.17 浄化槽清掃(早) 6.19～21 たちばな実習(オ) 6.26 たちばな実習(つ) 6.28 定時評議員会	1月	1.13 有田つくし福祉会交流会 1.18 喫茶はやつき(早) 1.25 地域高齢者家庭配食活動(早) 1.26 N・F・S グランフロント大阪(早) 1.29 がんばるデー募金活動(つ) 消防立入検査(あ) 1.31 移行支援会議・たちばな(オ)
7月	7.6 後援会総会(つ・早) 7.8～12 和社専実習2名(つ) 7.20 喫茶はやつき(早) 7.23 消防立入検査(オ) 7.23,24,30 たちばな親子体験(オ) 7.27 地域高齢者家庭配食活動(早) 7.30 たちばな親子体験(つ・早)	2月	2.5 移行支援会議・たちばな(早) 2.10 やまでん消防設備点検(つ・オ・早・あ) 2.13 新苦情解決第三者委員顔合わせ 2.15 喫茶はやつき(早) 2.17 有田つくし福祉会全体研修会 消防通報訓練(オ) 2.18 みはま支援学校見学2名(早) 2.19 津波・地震避難訓練(つ) 2.20, 21 たちばな実習3名(つ) 2.28 感染症対策研修会2名参加(あ)
8月	8.10 浄化槽清掃(つ) 8.17 喫茶はやつき(早) 8.26 消防機器点検(つ・オ・早・あ) 地震避難訓練(オ)	3月	3.12 新卒契約者説明会(早・オ) 3.14 通報・避難訓練(あ) 3.15 喫茶はやつき(早) 3.22 地域高齢者家庭配食活動(早) 3.24 消防通報訓練(早) 3.31 入所式(オ)
9月	9.14 スポーツ交流会(つ・早) 9.19 消防通報訓練(消防立会あり)(つ) 9.21 喫茶はやつき 9.25 浄化槽改修(つ) 地震避難訓練・防犯訓練(早) バーベキュー(早) 9.28 地域高齢者家庭配食活動(早) 9.29 やすらぎふれあいフェスタ販売・展示		
10月	10.1～3 湯中職場体験2名(オ) 10.5 オリーブ秋まつり(オ) 10.19 喫茶はやつき 10.22,25 たちばな実習1名(早) 10.23～25 吉備中職場体験3名(オ) 10.24 和歌山県GH職員研修会(あ) 10.28 有田つくし福祉会全体研修会 10.29 安全運転管理者等講習(つ・オ・早)		